

「都市民山！六甲山」を目指す

堂馬英二（六甲山を活用する会）

1. 「都市山」に「民」を加えたい

阪神淡路大震災から25年、六甲山に関わって18年になります。山麓市民の生活圏の延長として見直そうと、「六甲山を市民の山に」をモットーに掲げてきました。服部保先生は、六甲山の特質を「都市山」と提起され、わが意を得た感を強くしました。最近では行政や事業者が六甲山の賑わいを取り戻そうと動いており、ハイカーや観光客が増加しています。歓迎すべき気運かも知れませんが、リゾート化や観光化が進行して俗化が進む懸念もあり、「市民の視点」がまだ不足していると感じます。「都市山」に山麓市民の「民」を加えると「都市民山」となり、私たちが志向するものが鮮明になります。

2. 貢献できる成果は「六甲山のお話いろいろ」

私たちは六甲山に関わる際に、「六甲山について無知だ」と改めて自覚しました。虚心になって「六甲山を丸ごと知る」ことにし、「六甲山魅力再発見市民セミナー」を開催しました。15年132回を開催して、その報告を『六甲山物語』5巻にまとめました。さらに再編集して、①「六甲山の特色」、②「六甲山の歴史」、③「六甲山の生きもの」、④「六甲山とくらし」の4分冊に編成し、『六甲山発郷土誌』ファイルと名付けました。「六甲山のお話132話」の集大成になります。4分冊の表題は素人が地域全体を知るための切り口として重宝なもので、汎用性もあると自負しています。

ホームページに無料公開して、スマホでも気軽に検索できるようにしました。

「六甲山発郷土誌」：右のQRコードで取り込めます

<http://www.rokkosan-katsuyo.com/about/act/kyodoshimap/>



QRコード

3. 「まちっ子の森」と「散歩道」の自然環境は希少価値

もう一つの活動は六甲山記念碑台周辺での景観整備で、現在も継続しています。10年以上前は高木の枝が覆い被さって、昼でも暗くて人が通らなかった山道を整備し、周回2kmの「六甲山頂・森と歴史の散歩道」として保全し活用しています。隣接した放置山林のアセビを伐採して環境学習林「まちっ子の森」も実現しました。記念碑台の近辺に昔の六甲山を彷彿とさせる自然散策コースが再現しました。山道を利用するハイカーもこの10年で数十倍に増えています。六甲山の魅力を復活したといえます。しかし、近辺では集客施設のリニューアルが進んでおり、昔ながらの自然環境は少なくなっています。逆にいえば、「まちっ子の森」や「散歩道」で「失われつつある六甲山らしい自然環境」に親しむことができます。希少価値を高めているのです。

4. いよいよ「六甲山ササ刈り隊」の出番だ



「六甲山ササ刈り隊」森に集合



「散歩道」のササ刈り



子どもたちも活躍

六甲山上の景観整備に携わって、山の手入れが必須だと痛感しています。自然災害の被害が顕著になるのに、山上に住む人は減少し、山道の整備などは行き届かない状態です。山麓には150万人もの市民が住んでいます。六甲山を利用するのに並行して、自然環境の保全・整備などを山麓の市民も担えば打開策になります。「まちっ子の森」や「六甲山頂・森と歴史の散歩道」の景観整備を担う「[六甲山ササ刈り隊](#)」を提唱して、灘区役所などの助成を得て実施しました。まだ、参加者を集めるのに一苦勞ですが、この試みが市民に知られて、賛同者が増えることを願っています。

以上